

マンション問題総合研究所理事長

喜田 大三



謹賀新年

本年も なんとぞよろしく
お願い申し上げます

環境の世紀

新年をむかえ、景観に関する居住・地域環境、温暖化防止の地球環境、環境共生マンションなど環境の短文を書きます。

『景観の良マンション』

32年前に分譲マンションを購入。武蔵野線の新座駅から歩いて十数分。鉄筋コンクリート造七階建て百戸の六階。マンションは旧川越街道に沿っており、東向きペランダから眼下に街道沿いの農家とケヤキの屋敷林、右方向には平林寺の保安林。玄関を出れば、西南のはるか遠方には

美しい姿の富士。四季のうつりかわりは眼を楽しませ、遠景は心を休ませてくれます。

こんなマンションを選んだのは、これまでの住居生活の景観が良かったからでしょう。生まれた農家は南向き、一面の水田と遠方に山並み。社会人になって、京都の一戸建から大文字や東山の眺望。

『京都市の新しい景観政策』

古都・京都市は、景観の保全と創造に向け【京都市眺望景観創生条例】を昨年九月に施行。世界遺産十四社寺を含む三十八カ所に視点をもうけ、眺望や借景保全のため建築物の高さやデザインを規制。

榊本頼兼市長は「五十年、百年後を見据え、世界に誇る歴史都市の景観を保全、再生し、未来に伝えてゆく」

NPO京滋マンション管理

対策協議会の谷垣千秋幹事「景観意識の高い京都では高層マンションに反対。周辺住民が納得する高さのマンションに住むことも大切」

国交省景観室「欧州では歴史都市に厳しい規制は常識。

前例のない取組に注目」

『温暖化防止・京都元年』

昨年の猛暑は忘れられない。八月十六日に、埼玉県熊谷と岐阜県多治見では84年ぶりに四〇・九度の最高温度を記録。

一九九七年末、世界約百七十七カ国が京都に参集。日本が議長国、先進国の一九九〇年比の温暖化ガス削減率を定めた【京都議定書】を採択。関係各国が批准、〇五年に発効。

本年を京都元年として五年間に、先進国は議定書通り温暖化ガスを削減。米国が未だ批准しておらず残念。以上のあらましは本誌78号に紹介。

日本の義務は九〇年比で六%ガス削減。六〇八%増の状況から十数%減は容易でない。産業・エネルギー部門は、省エネと排出権の大量取得

で、削減目標に大きく前進。

(註) 排出権 先進国は省エネ技術や資金によって途上国からガス排出権を取得。一方、運輸、業務や家庭部門では、削減目標の達成が厳しい状態で、効果的な削減策

を模索中。日本は排出権の購入や森林整備に頼らざるをえない。早くも二〇一三年以降の【ポスト京都議定書】への取組が国際的に議論。温暖化防止には、今後二十一三十年の努力と投資が大切。

を模索中。

『温暖化防止・バイオ燃料』

自動車燃料に植物から製造したエタノール使用は、温暖化ガスの変動がなく、排出量をゼロとして計算できます。ブラジルはサトウキビ、米

国はトウモロコシから、世界のバイオ燃料の七割を生産。バイオ燃料は世界のガソリン消費の二・五%（熱量比較）に達したもよう。生産価格は

リットル当たり四十円程度。ブラジルの国内では、ガソリンに二十数%混合を義務づけています。

日本も産官学共同でバイオエタノールの低コスト量産技術の開発に着手。稲わらやもみ殻、解体建築

木材など割安で大量入手できる廃材を利用。二〇一五年にリットル当たり生産コスト四

十円の国際水準を目指します。

『環境共生のマンション』

高断熱・高気密構造の冷暖房、自然エネルギーの太陽光発電、雨水の再利用施設、廃棄物削減の生ゴミ処理機、既存樹木の保存、屋上緑化。

以上は、環境共生マンションに採用された要素技術の一部です。【環境共生住宅】地球環境の保全、地域周辺環境との親和性、居住環境の健康・快適性の3目的がバランスよく実現した住宅（戸建・集合）。

新築に際し、(財)建築環境・省エネルギー機構に申請し審査をうけ、【環境共生住宅】と認定されると、融資や補助の優遇措置が受けられ、販売や転売の際には品質保証になります。

平成十一年から十七年までの認定戸数は次第に増加しているが少ない。官も協力して、企業の推進協議会が積極的に活動しています。

マンション改良時にも、環境共生の考え方や要素技術は参考になるでしょう。